

政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

評価項目	評価
施策04 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	概ね適切

【参照：資料 - 37】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
【施策の課題】 ・NPO法人やボランティアによる芸術、文化活動の支援に対し、側面的な協力や援助を行い、歴史的遺産の活用や鑑賞型から参加型への事業転換、さらには、市外への活動状況の発信などを進める。	施策の目的に「鑑賞型の文化事業に加え参加・育成型の文化活動を支援」とあるが、施策の課題では「鑑賞型から参加型への事業転換」となっており、符合していない。施策の目的を踏まえて施策の課題の表現を工夫すべきである。	目的に逸脱した表現はできるだけ見直す。
	基本事業04にれんがの保存と活用が位置付けられているが、施策の課題の中にはれんがに関する記載が一切ない。	追記等見直しを検討する。

担当部署の評価内容	委員の意見
【施策の目的】 鑑賞型の文化事業に加え参加・育成型の文化活動を支援するとともに、文化財を保護し、歴史的遺産を活用した環境整備を進めることによって、市民のふるさと意識を醸成します。	「ふるさと意識を醸成します」とあるが、これはこの施策単体で醸成できるものではないので、「醸成に努めます」程度の表現にしておいた方が全体のつり合いを考えると妥当ではないか。
【施策の成果指標】 江別の歴史と文化に誇りを持ち愛する気持ちを持つ市民割合	この指標自体は市民アンケートの調査票B-1の間1「あなたは江別の文化・歴史に誇り・愛着を持っていますか」の回答を数値化したものということだが、設問が大雑把で主観的すぎるので、より客観性のある尺度を持った設問に改めた方が良い。

政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

評価項目	評価
施策04 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造 基本事業01 自主的市民文化・芸術活動の育成・支援	概ね適切

【参照：資料 - 38】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
【事業の達成状況】 市民参加による各種文化事業数は初期値に対して増加したが、参加者数は減少した。平成21年度と比較すると事業数、参加者数とも減少した。地域文化の創造のためにも今後も引き続き事業内容の充実や参加者主体の実施のため育成支援していく。	結果の増減に関する記載はあるものの、その原因分析の記載がない。成果指標それぞれの数値を鑑賞型と参加型に分けて分析するなどして、原因の記載をしていただきたい。	文化活動というのは景気に左右されやすく、それに伴い事業数や参加者数の増減があるのだろうと分析しているので、そのことを記載するように検討する。
	「市民参加による各種文化事業数」とあるが、これでは対象を市民に限定しているようにも思える。表現を別のものに替えられないか。	適切な表現について検討する。
【事業の成果指標】 各種文化事業参加者数	「各種文化事業参加者数」では市民がどのような文化芸術活動に参加して、それがどのように推移しているかわからない。市民がこの基本事業にどのように関わっているのかわかる指標があったほうがいいのではないか。	「各種文化事業参加者数」はいくつかの文化事業に参加した人数を取りまとめたものなので、細分化して数値化することは可能である。ただし、その細分化をどのレベルまで行うのかということに関しては難しい面があるので、検討する。

政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

評価項目	評価
施策04 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造 基本事業02 文化・芸術を支援する市民組織の育成	概ね適切

【参照：資料 - 38】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【事業の達成状況】 団体数、文化事業数ともほぼ同数であり、NPO等の文化団体は、市民のための良質の芸術鑑賞や文化事業参加の機会を引き続き提供して、地域文化の発展や拡充のため活動を展開している。今後も関係機関との連携を含め市民のための事業推進が図られるよう育成支援していく。</p>	<p>「ほぼ同数であり」とあるが、同数で推移している原因は何かについての記載がない。</p>	<p>それぞれの団体等のバックデータがあるので、それを分析してもう少しわかりやすく表現できるよう検討する。</p>

政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

評価項目	評価
施策04 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造 基本事業03 文化・歴史的遺産の保存と継承	概ね適切

【参照：資料 - 39】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
【事業の達成状況】 成果指標は、隔年実施のアンケートによるため成果を確認できない。郷土資料館では開館20周年記念事業で縄文文化を紹介する特別展を開催したほか伝統芸能「野幌太々神楽」の発表会にも共催協力し、また、セラミックアートセンターでは土器の野焼き体験事業を行うなど、ふるさとの歴史・文化を後世に伝えていくことに努めた。しかし、日常生活との関わりが薄い分野ということもあり、成果指標は横ばい状態である。現在、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」を世界文化遺産に登録する運動が進められており、市民の縄文文化に対する関心も高まることが期待される。今後も郷土の文化・歴史遺産の正しい継承に地道に取り組むことが必要である。	セラミックアートセンターに関する記述に「日常生活との関わりが薄い分野」とあるが、セラミックスは江別市が注力している分野なのだから、このような消極的な書き方は適切でない。このような書き方をしてしまうと、そもそも基本事業に位置付ける必要があるのかという話にもなりかねない。	セラミックアートセンターが「関わりが薄い分野」という意図で記載したわけではないが、誤解を招く恐れがあるので、「なじみが薄い」などの表現に改める方向で検討する。
	『「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」を世界文化遺産に登録する運動が進められており、市民の縄文文化に対する関心も高まることが期待できる』とあるが、世界文化遺産に登録しようとする対象に江別の遺跡は入っていない。その意味で、江別市として縄文文化のどこに力を入れているのかわかるような表現にすべきである。	江別市として力を入れたところを強調して記載するというのも1つの書き方だと思うので参考にしたい。

担当部署の評価内容	委員の意見
【事業の成果指標】 文化財や歴史遺産の継承と保存活用により個性豊かな文化が育っていると思う市民割合	この基本事業の意図を勘案すると「文化財や歴史遺産の継承と保存活用ができていると思う市民割合」と「個性豊かな文化が育っていると思う市民割合」とに分けて数値化したほうが、よりふさわしい指標になるのではないかと。

政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

評価項目	評価
施策04 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造 基本事業04 れんがの保存と活用	概ね適切

【参照：資料 - 39】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
【事業の成果指標】 ①れんがのまちを誇りに思う市民割合 ②れんがを活用している市民割合	基本事業の目的の中にある「歴史的れんが建造物の保存・活用を図る」という文言からすると、「保存数」や「活用事業数」などの客観的指標が出せないか検討すべきである。	市が直接かかわっているものだけでなく、個人の方が持っているものも多いので、整理して、指標として出せるのかどうか検討する。